

平成15年度 口腔状況調査について

～ 第1報 ～

1 調査の目的

この調査は県民の歯科疾患の実態を把握し、県が実施してきた歯科保健対策の効果について検討を行い、今後の歯科保健対策の推進に必要な基礎資料を得ることを目的として沖縄県が行ったものです。

2 調査の対象

口腔状況調査の被調査者数は787人（男312人、女475人）でした。

3 調査の期日

平成15年11月（県民健康栄養調査の身体状況調査と共に実施）

4 主な調査事項

(1) 口腔内状況

- 1) 現在歯
- 2) 喪失歯およびその補綴状況（義歯、ブリッジ等による処置状況）
- 3) 歯肉の状況
- 4) 歯列・咬合の状況

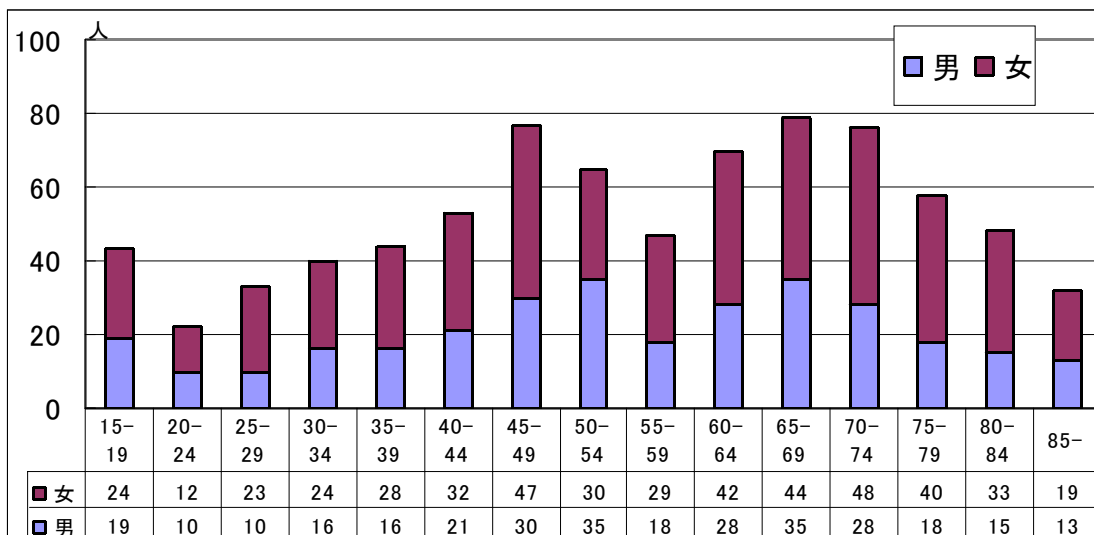
(2) 健康意識（沖縄県民健康栄養調査生活習慣調査票に質問項目を追加して実施）

5 調査結果の概要

主な調査事項の中より、現在歯の状況、歯肉の状況及び健康意識調査（歯科分）について概要を示します。

年齢階級別の被調査者数は図1のとおりです。

図1 被調査者の年齢分布

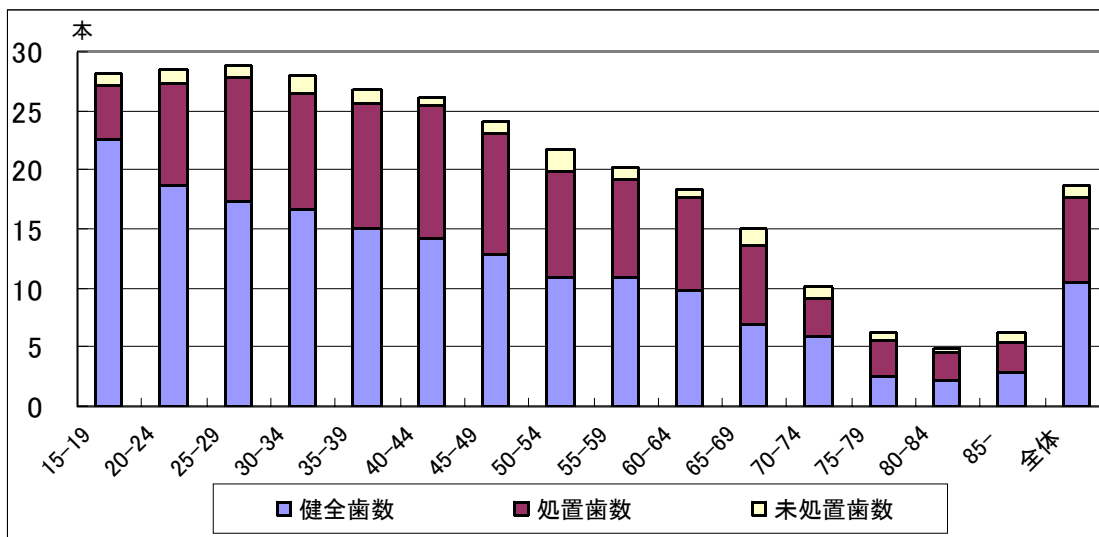


(1) 現在歯の状況

一人平均の現在歯数は、 18.8 ± 9.20 本でした。そのうち、健全歯は 10.5 ± 6.91 本、処置歯は、 7.2 ± 4.95 本、未処置歯は、 1.0 ± 1.4 本でした。

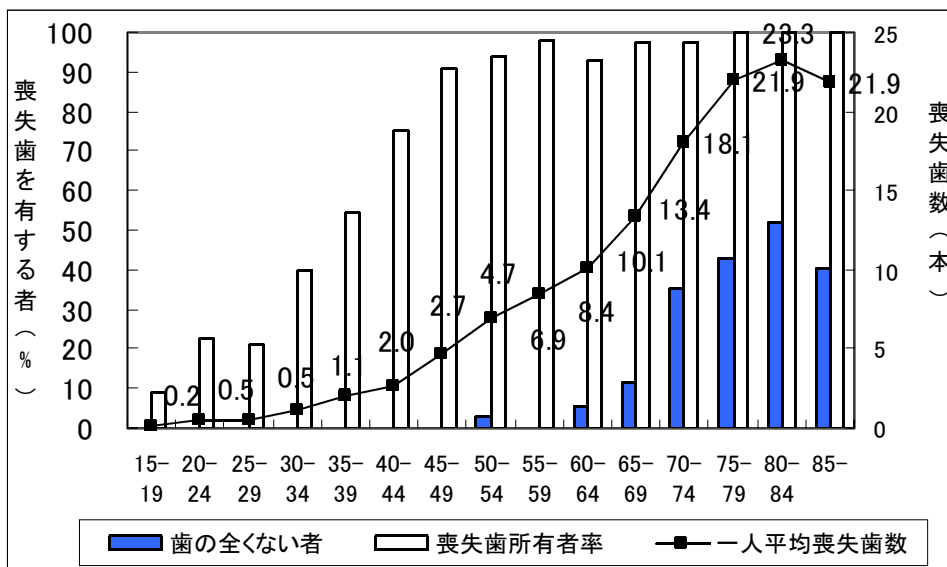
年齢があがるにつれて現在歯が減少していきます。(図2)

図2 一人平均現在歯の状況(年齢階級別)



また、喪失歯所有者率は、総数で 66.3%、男性は 77.2%、女性は 81.9% でした。年齢階級別では、年齢があがるにつれて増加し、50歳代からは歯が全くない者がみられます。一人平均喪失歯数は、総数で 9.8 本でした。年齢階級別では、年齢があがるにつれて増加しています。(図3)

図3 年齢と歯の喪失の関係



(ア) う歯のある者とその処置状況

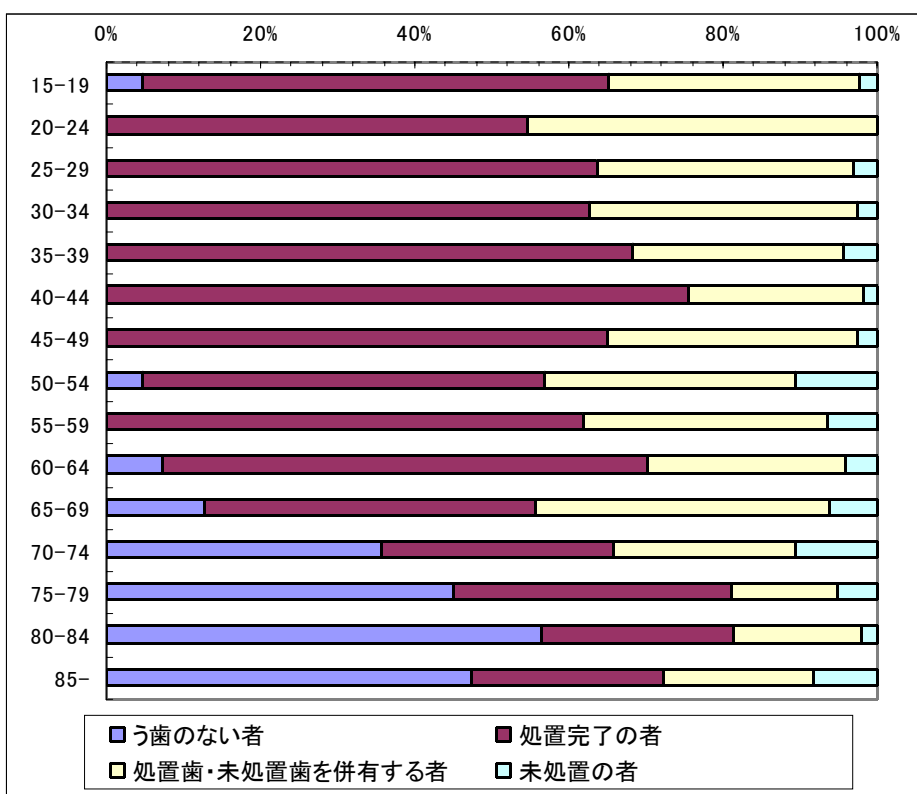
う歯のある者（歯の全くない者は除く）の割合は、全体で 85.6% でした。平成 10 年の調査値（89.2%）と比較すると、わずかに減少しています。これは、歯が全くない者の割合が平成 10 年に比較すると 8.7% から 13.3% と増加していることによると推測されます。

う歯のある者の処置状況は、う蝕有病者総数を 100 とすると、処置完了者が 60.8%、処置歯・未処置歯を併せ持つ者 33.1%、未処置の者は 6.1% でした。（表 2）

平成 10 年と比較すると処置完了者が 1.2% 増加していますが、処置歯・未処置歯を併せ持つ者が 2.7% 及び未処置の者が 1.5% 増加し、悪化傾向がみられます。

年齢が上がるにつれて、う歯のない者が増加していますが、そのほとんどは歯がない者で占められています。また、処置完了者の割合が減少し、未処置の者が増加する傾向にあります。（図 3）

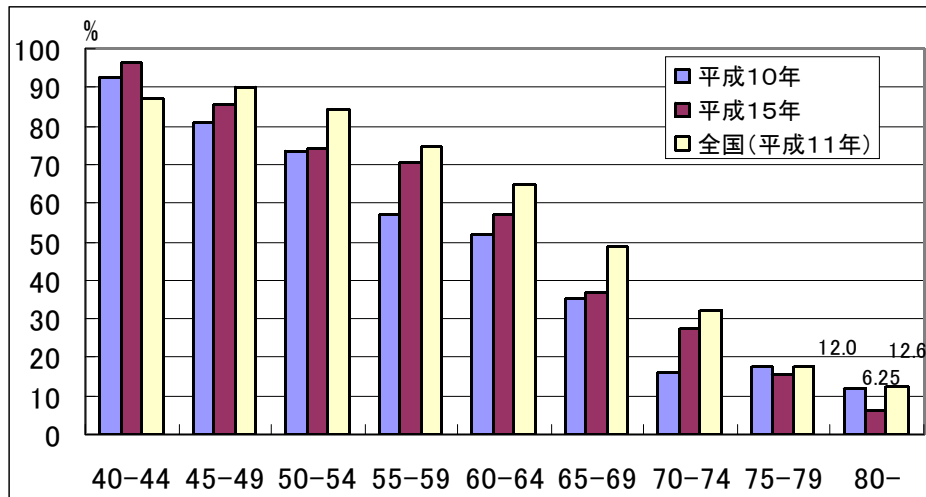
図 3 う歯のある者の処置状況（年齢階級別）



(イ) 20 歯以上の歯を有する者の割合

平成 10 年と比較すると、74 歳までは 20 歯以上の歯を有する者の割合は増加しています。しかし、80 歳以上では、平成 10 年度の約半分に減少しています。また、全国値と比較すると、40-44 歳を除いて割合は低くなっています。（図 4）

図4 20歯以上の歯を有する者の割合

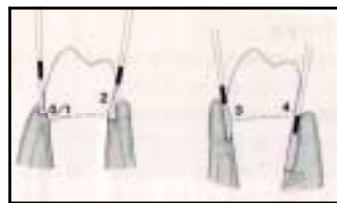


(2) 歯肉の状況

上下左右の第 1、2 大臼歯及び右上中切歯、左下中切歯を対象歯とし、各歯の歯肉の状況を WHO の CPI プロブを用いて、診査し、個人の最高コード値をとります。



CPI プロブ

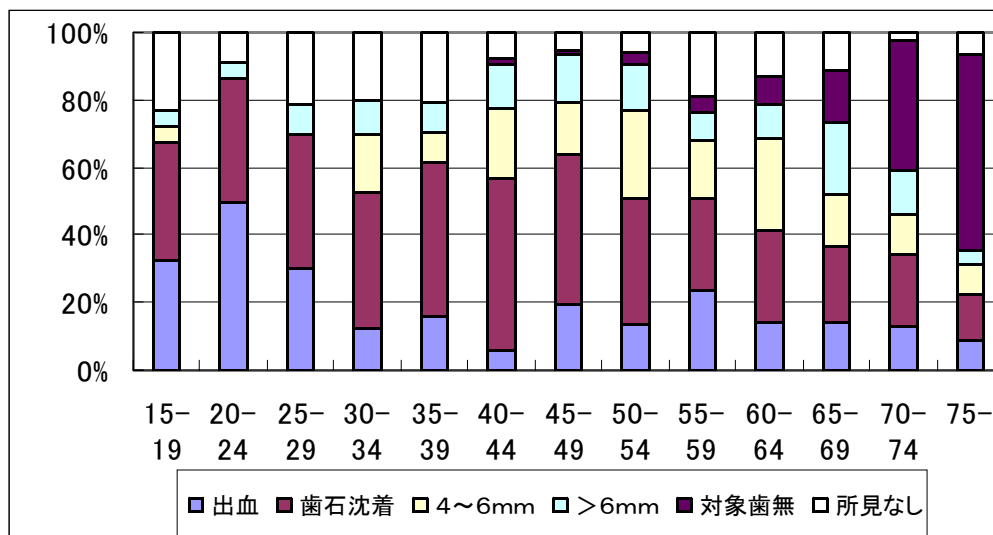


CPI プロブによる測定基準

総数で見ると、所見のある者は、72.2%、所見のない者が 10.9%、対象歯のない者が 16.9%となっています。

年齢階級別の有病者率を見ると、年齢が上がるにつれて、所見のある者が増加し、総数では、45-49 歳で 93.5%と最も高い率を示しています。それ以降の年齢群では対象歯がない者の率が高まり、相対的に所見のある者が減少しています。

図5 歯肉の所見の有無（年齢階級別）



(3) 平成 11 年歯科疾患実態調査（全国）との比較

(ア) 現在歯の状況

表 1 一人平均の現在歯 (上段：本)(下段：%)

	現在歯数					喪失歯数
	健全歯	う歯数			喪失歯数	
		総数	処置歯	未処置歯		
全国(H11)	21.1 (100)	11.3 (53.6)	9.8 (46.4)	8.6 (40.8)	1.2 (5.7)	5.9
沖縄県	18.8 (100)	10.5 (55.9)	8.2 (43.6)	7.2 (38.3)	1.0 (5.3)	9.8

全国と比較すると、現在歯数が少なく、喪失歯数が多くなっています。

現在歯に占める健全歯の割合は、全国(53.6%)に比べ、沖縄県(55.9%)と、高い傾向がみられます。また、う歯の割合は、全国(46.4%)に比べ沖縄県(43.6%)は低い傾向がみられます。(表1)

(イ) う歯の処置状況

表 2 う歯の状況 (単位:%)

	う蝕有病者 総数	う蝕有病者総数を 100 としたときの		
		処置完了の者	処置歯・未処置 歯を併有する者	未処置の者
全国(H11)	85.9	51.3	44.5	4.2
沖縄県	85.6	60.8	33.1	6.1

う歯の処置状況について全国と比較すると、う蝕有病者率はほぼ同様な状況ですが、処置完了者率は高くなっています。しかし、未処置の者は全国より高くなっています。(表2)

平成 10 年度の調査でも同様の傾向がみられました。

(ウ) 20 歯以上の歯を有する者の割合

20 歯以上の歯を有する者の割合を全国と比較すると、45 歳以上では各年齢階級で低くなっており、80 歳以上では全国の約 1/2 の割合でした。

(I) 歯肉の状況

表 3 歯肉の所見の有無(総数) (単位:%)

	所見のある者					所見のない者	対象歯のない者
	総数	出血	歯石 沈着	ポケット 4~6 mm	ポケット 6 mm以上		
全国(H11)	72.9	11.3	29.1	25.4	7.1	16.9	10.2
沖縄県	72.2	16.3	30.7	14.4	10.8	10.9	16.9

歯肉の状況について、全国と比較すると、総数で所見のある者はほぼ同様な割合でした。また、所見のない者は全国に比べ少なく、対象歯のない者は多い状況でした。

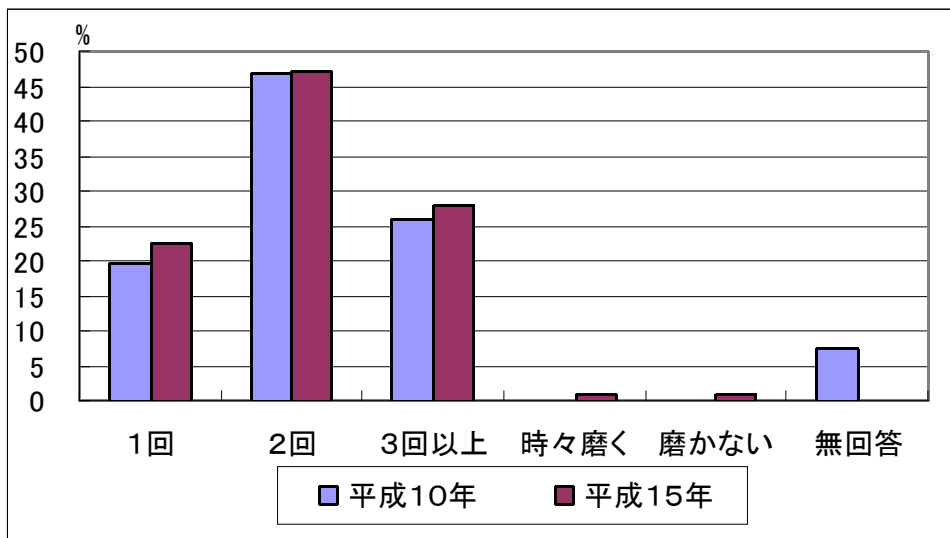
所見のある者では、進行した歯周炎（CPIコード 3以上：ポケット4~6mm及びポケット6mm以上）は、全国では32.5%でしたが、沖縄県では25.2%と低い状況でした。

(3) 生活習慣調査（歯科分）

(ア) 歯みがきの状況

毎日みがく者は、2回が47.2%、3回以上が28.1%となっており、平成10年の調査と比較すると3回以上みがく者が増加しています。みがかない者が1%いました。（図6）

図6 歯みがきの状況（年度比較）



(イ) 歯間部清掃器具（歯間ブラシ、フロス）の使用状況

歯周疾患の危険因子を減らすための目標として、50歳代の歯間部清掃器具を毎日使用している者割合を増加させる事としています(2010年の目標値50%以上)。総数で見ると、毎日使う者は、12%です(図7)。50歳代では、16%でした。(図8)

図7 歯間部清掃器具の使用状況（総数）

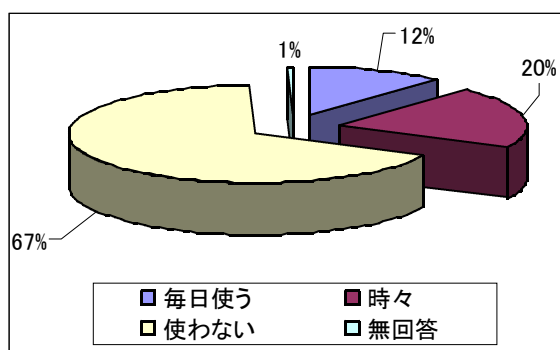
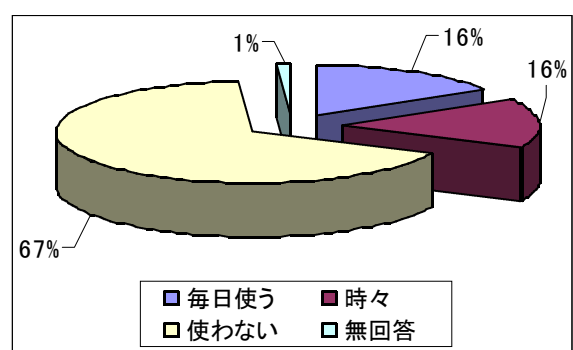


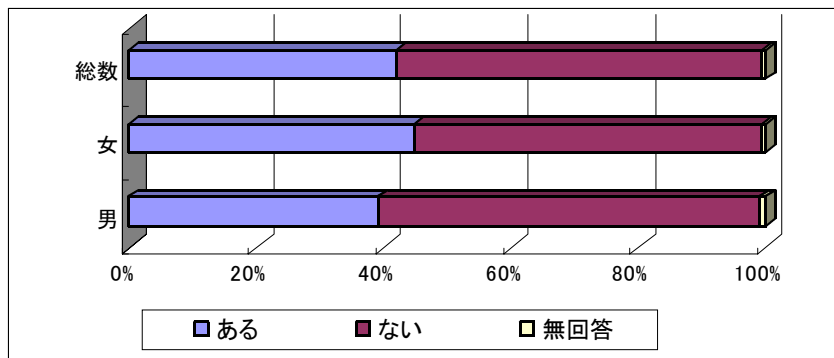
図8 歯間部清掃器具の使用状況（50歳代）



(ウ) 1年間の歯科受診状況

1年間に歯科医療機関を受診した者は、総数で42.1%でした。男女別では女性の受診状況が男性より高い状況でした。(図9-1)

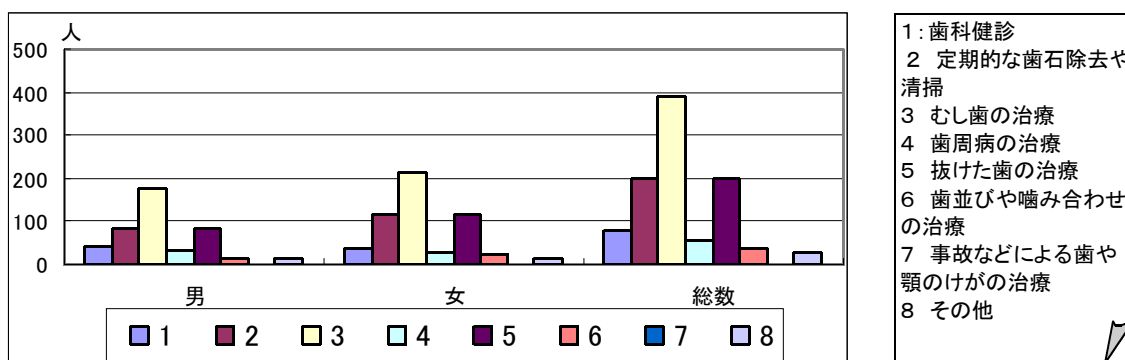
図9-1 1年間の歯科医療機関受診状況(男女別)



医療機関で受けた内容は、総数でむし歯の治療が最も多く、次いで定期的な歯石除去や清掃、抜けた歯の治療となっています。(図9-2)

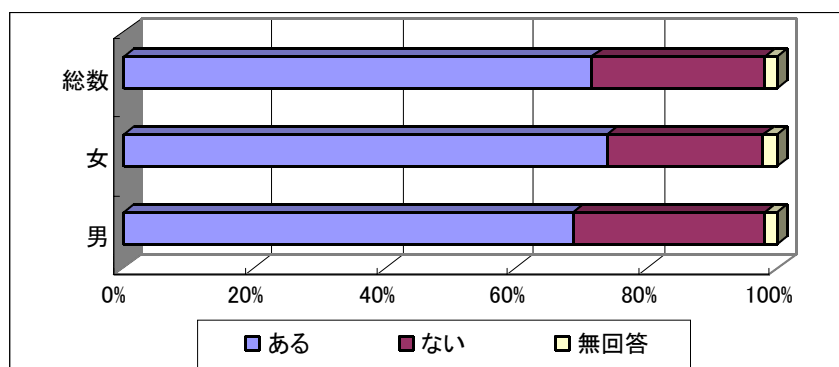
男女別でも、同様の傾向が見られます。

図9-2 歯科医療機関で受けた内容(3個までの複数回答)、男女別



医療機関を受診した者にかかりつけ歯科医の有無について質問したところ、受診者の71.7%がかかりつけ歯科医があると回答しました。

女性は男性に比べかかりつけ歯科医があると回答した割合が高い傾向が見られました。(図9-3) 図9-3 かかりつけ歯科医の有無(1年間に歯科医療機関を受診した者)



(I) 8020(ハチマルニイマル)運動

80歳になっても20本以上の自分の歯を保とうという8020(ハチマルニイマル)運動について「聞いたことのある」人は総数で47.5%でした。女性が男性に比べ知っている割合が高くなっています。(図10)

図10 8020運動という言葉聞いたことがあるか(全ての対象者)

